

## 5. 海外プログラム事業部

(国際協力、国際支援)



## 学生からの報告

### 海外スタディツアー（スリランカ） ～成長からさらなる飛躍へ～

活動場所	スリランカ
ツアーの目的	貧困とフェアトレードについて学ぶ
参加人数	学生18人（内、学生メンバー9人）、引率

海外プログラム事業部は2013年から毎年、夏期休暇期間にスタディツアーを開催している。今回は第3回目として、インドの南東部に位置する島国スリランカを訪れ、貧困とフェアトレードについて学ぶツアーを企画した。このツアーは9月5日（土）から12日（土）の1週間という期間で開催され、9人の海外プログラム事業部所属学生と9人の一般学生、計18人が参加した。

#### 1) 事前学習

今回のスタディツアーでは5回の事前学習をおこない、それぞれフェアトレードや内戦にテーマを絞って開催した。スリランカという国を多面的に見ることで多くのイメージを持ち現地に行くことができた。一方で、スタディツアー後のアンケートに、「知識を受け取る事前学習以外に、ディスカッションなどを含めた『考える事前学習』も必要なのではないか」という意見もあり、その点に関しては改善する必要がある。



#### 2) 現地での活動

今回は首都や大都市だけでなく、農村もあわせて訪問することで地域格差や農村部の人々の生活を知る、といったことも狙いの一つであった。そのため、普段の観光旅行では訪れることの少ない農村部を訪問。フェアトレード商品である紅茶農園の見学や、そこで働く生産者からお話を伺うことができた。しかし移動に多くの時間が割かれ、せわしないツアーとなってしまった。



現地大学生と交流した

### 3) 事後学習

今回は報告会として、参加した学生が現地で学んだことをアウトプットする場を企画した。しかし、報告会参加者のほとんどは、海外プログラム事業部の所属学生、または今回のスタディツアー開催にご協力いただいた方だったため、報告会としては一般学生への広報が不十分だった。

今回のスタディツアーは、前年度のスタディツアーを通して感じた点を改善しつつ、よかった点を進歩させることを念頭に企画した。来年度のスタディツアーも今年度のツアーを改善しつつ、新しいツアーを作り上げてほしい。

(学生メンバー 国際学部国際学科)

## 国際ガールズ・デー 2015 ～羽ばたけ！ 世界の女の子～

海外プログラム事業部・ガールズセクションは、国連で定められた「国際ガールズ・デー」の認知を広めるための啓発活動をおこなっている。

2015年も昨年に引き続き、「国際ガールズ・デー」の認知を広めるため、国際ガールズ・デーに合わせてさまざまな活動をおこなった。本学横浜キャンパスでは、国際ガールズ・デーのイメージカラーであるピンクの飾りつけをする“ボラセンラッピング”、女の子に関する書籍を図書館で宣伝・生協で販売する“ブックフェア”、プラン・ジャパン Because I am a Girl の新しいキャンペーンである、翼をモチーフにした写真にハッシュタグをつけて投稿する SNS アクション“「#Girl4President ～羽ばたけ！ 世界の女の子～」アクション”への協力を呼びかけた。

10月11日の国際ガールズ・デー当日、私たちガールズメンバーは、渋谷にある国連大学でおこなわれた“国際ガールズ・デー イベント「羽ばたけ！ 世界の女の子」～『わたしはマララ』日本初特別試写会 & トーク～”のボランティアスタッフとして参加した。それぞれ展示の設営や受付、来場者の誘導などをおこなった。また、メインイベントの観覧もさせていただき、ゲストのスピーチや『わたしはマララ』の鑑賞をし、世界の女の子について考える機会となった。

11月25日には、横浜隼人高校でワークショップイベントをおこなった。おこなったワークショップは“Photo Language”といい、写真に写っている女の子の立場や背景を想像し考えるものである。このワークショップを通して高校生たちと一緒に世界の女の子の現状を考えるよい機会となった。

2016年初めは、プラン・ジャパンの“書き損じはがき・未使用はがきキャンペーン2016”の、ネパール 安全な妊娠・出産支援プロジェクトの支援に協力させていただく。2016年は今年収集したはがき約3万枚を超える4万枚の収集を目指しており、昨年よりも広報に力をいれていく。また、支援国ネパールについての勉強会もおこなう予定である。

今年も多くの方々のご支援・ご協力により、さまざまな活動をおこなうことができたことに感謝している。来年も私たちのできることを最大限に生かし、「国際ガールズ・デー」の認知を広める活動をおこなっていききたい。

(学生メンバー 国際学部国際学科)

## イベント報告

### 開催イベント①

#### 世界一大きな授業

活動日・場所 2015年5月29日(金)、横浜キャンパス 1031 教室

目的 教育の大切さを伝える

参加人数 学生 31 人 (内、学生メンバー 16 人)、外部の方 1 人

### 開催イベント②

#### Trick or Treat ペットボトルキャップ

活動日・場所 2015年11月28日(水)～30日(金)、横浜キャンパスボランティアセンター前

活動内容 ペットボトルキャップ回収の呼びかけ

参加人数 海外プログラム事業部 学生メンバー 20 人

### 開催イベント③

#### 第1回『ねえ、MDGs と SDGs って知ってる？～SDGs を通して考える未来の世界の作り方～』

活動日・場所 2015年12月7日(月)、横浜キャンパス 10号館 1階国際センターコモンズ

活動内容 原田勝広教養教育センター教授による SDGs の講演

参加人数 学生 16 人 (内、学生メンバー 11 人)、外部の方 1 人

### 開催イベント④

#### 第2回『ねえ、MDGs と SDGs って知ってる？～SDGs を通して考える未来の世界の作り方～』

活動日・場所 2016年1月9日(土)、白金キャンパス 1351 教室

活動内容 新谷大輔氏(三井物産株式会社)による SDGs の講演とワークショップ

参加人数 学生 19 人 (内、学生メンバー 12 人)、外部の方 2 人

海外プログラム事業部のイベントセクションは2015年度に新しくできたセクションである。企画、広報、運営まで自分たちでおこなった。

最初の開催イベントは5月29日の「世界一大きな授業」であった。教育協力NGOネットワーク（JNNE）提供の「世界一大きな授業」に加え、海外プログラム事業部メンバーによる「世界一楽しい授業」も開講した。本イベントの授業テーマは世界の教育現状や教育の大切さを参加者に伝えることであった。

11月28～30日昼休みには「Trick or Treat ペットボトルキャップ」を実施した。ハロウィンにちなんでメンバーが仮装をしてキャップ回収を呼びかけ、寄付してくれた方にはお菓子をあげるという内容である。3日間で4,030個のキャップが集まった。



「世界一大きな授業」  
キャンパス内に設置する立て看板を製作中



第2回「ねえ、MDGsとSDGsって知ってる？～SDGsを通して考える未来の世界の作り方～」ワークショップの様子

日本で浸透していない世界の解決すべき項目をまとめたSDGsに関するイベントは、12月7日と2016年1月9日の2回に分けて開催した。第1回目は明治学院大学教養教育センターの原田勝広教授に講義をお願いした。第2回目は三井物産の新谷大輔氏をゲストスピーカーとしてお招きし、講義とこれからの世界について考えるワークショップをおこなった。

今年度新たにできたセクションだったため、お手本にする前例がなく、試行錯誤しながら毎回イベントを作り上げてきた。時に広報等で悩むこともあったが、メンバー一同、来年度に生かせる良い土台ができたと思っている。

(学生メンバー 国際学部国際学科)

## ワークキャンプ

ツアー日程	2015年4月24日（金）～26日（月）
活動場所	長野県小谷村
参加人数	学生メンバー15人



2015年4月24日、今回のワークキャンプは、日本国際ワークキャンプセンターNICEさんのご協力のもと、協働学舎「真木の家」でおこなった。現地では雪かき、薪作業、田んぼ作りなどさまざまなことに携わった。普段、都会で便利に暮らしている私たちにとって「何か力になれることはないだろうか」とい

う気持ちで参加したはずだったが、逆に新たな価値観を先方に教えていただいた。自給自足の生活で支えあって生きる大切さを学んだ。

(学生メンバー 国際学部国際学科)